

# 教育プロフィール作成支援に関する研究

1130381 古田 千春 【 清水研究室 】

## 1 はじめに

教師の業務には授業や校務、報告書の作成、見回り、点検など多忙である。業務の多忙さから、児童と向き合う時間が減り、児童との関係作りが十分に出来ない状況である。実際、教師-児童間で会話が成り立たず、反抗的な態度を取る児童の存在などにより、適切な指導が困難になっている [1]。適切な指導が困難になっているため、いじめの発生、不登校の児童が増加傾向にある [2]。

いじめや不登校などの問題行動は、事後指導が主であるが、問題が起こる前に解決する“未然防止”の取り組みが進められている。しかし、起きていない問題の場合には、教職員が危機感を実感しにくい。未然防止の取り組みを積極的に行うためには、“児童の未だ現れていない課題を発見すること”が重要とされており、児童の性格や特徴を理解し、傾向を見極める必要がある。

児童の情報が書かれている文書としては、指導要録や出席簿、健康診断、指導計画書(特別支援が必要な児童のみ)などの公的文書がある。また、教員が独自で作成した記録や学校が必要に応じて作成する記録などがある。しかし、これらの文書から児童の性格や特徴の理解は行えるが、傾向を見極め、起こるであろう問題を予測することは困難である。

そこで本研究では、児童の特徴から傾向を予測するシステムの開発を行う。

## 2 提案システム

児童の特徴から傾向を予測するには、人物像に対してどのような情報が必要か、また、それを特徴として捉えるために必要な情報が何であるのかを把握しなければならない。

そこで、本研究では児童の特徴情報の軸となる人物像の閾値の導出方式について述べる。

### 2.1 指導要録から抽出できる人物像

人物像の初期値として、問題を起こす児童・起こさない児童の分類を行う。小学校の教員にアンケートを行い、その結果をもとにグループを決定した。グループは、問題を起こす児童として不登校の児童・集中力の持続が厳しい児童、起こさない児童として、リーダー気質・成績優秀な児童という4つのグループで行った。これらの児童の特徴を把握することで児童の成長傾向へのプロフィールに適応する。

### 2.2 特徴の分類

上記で述べた人物像の特徴を指導要録の評価方法から導出した。指導要録の項目は表1の通りである。指導要録の評価を元に、良・可・不可の3項目に分け、そ

項目	内容	評価
各教科の学習の記録	国語, 社会, 算数, 理科, 生活, 音楽, 図画工作, 家庭, 体育	A・B・C 評価
評定	国語, 社会, 算数, 理科, 生活, 音楽, 図画工作, 家庭, 体育	5段階評価
特別活動	学級活動, 児童会活動, クラブ活動, 学校行事	特に優れている場合に○
行動の記録	基本的な生活習慣, 健康・体力の向上, 自主・自立, 責任感, 創意工夫, 思いやり・協力, 生命尊重・自然愛護, 勤労・奉仕, 公正・公平, 公共心・公德心	特に優れている場合に○
出欠状況	授業日数, 出席停止・忌引等, 出席必須日数, 欠席日数, 出席日数	各日数を記入

表1 文書と項目の関係

の閾値を導出した。さらに結果からグループを分類し、要素の選定を行った。そして選定したグループから、問題行動を起こした児童をあてはめ、傾向を示した。

### 2.3 結果と考察

本研究では、小学校教諭の協力のもと、実際の指導要録を用いて、グループを分類するための閾値を導出することができた。結果、指導要録から問題を起こす児童の特徴を導出することができた。

## 3 おわりに

本研究では、指導要録の評価項目を用いて児童の人物像の特徴を数値化した。本研究は、プロフィール作成支援システムの基礎研究の1つである。そのため今後は、多数の児童情報の入力に対して、特徴に近い人物をグループ化するための閾値の修正やより詳細な人物像を制定することにより、実用的な教師の児童指導を支援するシステムを作成したいと考える。

## 参考文献

- [1] 高橋早苗, 鈎治雄 “「教師-生徒関係」におけるコミュニケーションの課題,” 創価大学教育学会, 2008.
- [2] 文部科学省 “H23 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について.”